

「ベニカナメモチ (紅要繭)」

刈込みの適期は春から夏。4月、6月、8月前半、9月初めの4回くらい刈り込むと新芽の赤い色を楽しむことが出来ます。ただし、9月に深く刈ると翌年の春の芽吹きが悪くなります。葉に黒い斑点が出来、新芽が黒くなって枯れてしまう『ごま色斑点病』が増えています。ベンレート水和剤などの殺菌剤を散布すると良いでしょう。



ベニカナメモチ

一建落着

K邸 (今市)

居間・食堂・台所・トイレ・・・と構造補強も施しながら大規模なリフォームを行いました。



台所 施工前



食堂



筋違いを“たすき”に入れ、補強金具もしっかりと。これで安心。地震が来ても、大丈夫！



施工後

IHの前はシースルーお顔を見ながらの炊事は、楽しくて会話も弾みます。



施工後

居間と食堂の間には、全開可能な折り戸を。



居間

ご家族が集う居間には、もう直ぐ『薪ストーブ』が据わります。今から冬が楽しみです。



作り付けの洗面と小物洗いです。

発行人 川野和男
編集 川野組内
家造り匠の会

☎ 0974-62-2416

✉ tkk22@theia.ocn.ne.jp

🌐 <http://www6.ocn.ne.jp/~k-kawano>



なごみ

『二百十日』

立春から数えて210日目は昔から台風や嵐の予定日

五高の同僚と豪雨の中を阿蘇に登る話

夏目漱石の短編『二百十日』が発表されてちょうど百年とか

梅雨時の雨と違って竹田の秋雨は南部口に降る

祖母山麓の原生林に潤いを与える恵みの雨も

土砂降りになるとかつてのように大災害となる

今年の「二百十日」は疾うに過ぎた8月31日

ひと安心？いやいや油断大敵

昨今は「二百二十日」「二百三十日」も有り得るのだから

旬の版画

竹田らしい まちなみ

と言えば 殿町

その道筋で

ふと目にした 彼岸花

住む人の心遣いに

嬉しくなりました



AP 「殿町の佇り」 R. Kawano

ちょっと木になるお話 国体の「お立ち台」

夕方のテレビニュースに北京オリンピック閉会式の模様が映し出されていました。IOCの会長がスピーチを行っている前に置かれた演台は巻物が繞んだ様を想わせ、いかにも

“紙の文化発祥の地”といった小洒落たデザインです。

「聖火台も、あの演台もいいなあ。自国の文化をきちんとアピールしちよるわ。同じ極東でも日本人には無い感性やな。さあ、いよいよ9月は国体じゃが、大分県はあんなの作れるんかな。」晩酌の

グラスを傾けながら私が洩らした言葉に、飯台の向で同じく一杯やっていた父が反応しました。

「もう随分前じゃけど、鈴木さんに頼まれて。国体のお立ち台の材料を納めたことがあったな。」

「えっ？国体のお立ち台？」「うん、天皇が立つお立ち台じゃ。」

「え～っ！そんなことがあったんな。・・・でも、なんでうちが納めたんな？」

「国体の関係者が『木材は市場に頼めばいい』ち言うて下関木材市場に話が来たんじや。

あの当時、山口県には木材市場は下関しかなかったんじや。」

「下関？山口県？大分じゃなくて山口の話な？」「そうじゃ山口であった国体じゃ。」

「なんだ。何か話が変わやと思うた・・・いや！やっぱ凄い事やんか！そんで、それは何時あったんな？」「大分国体ん少し前じゃったな。（山口国体の開催は昭和38年。大分国体の3年前です。）」

「ふ～ん。2巡目の山口国体は、平成23年にあるから、そんな時も近い頃に開かれちよるんやなあ。

で、何でうちに言うて来たんな？」「山口県は、松の山が多いからな、良い桧が無かったんじやろう。鈴木さんが話を回してくれたんじや。丁度その頃うちは、神角寺にある営林署の山をやり掛けた時じゃった。鈴木さんには、『今度はこの山をやるから』ちゆうて神角寺の山を見せちよったんじや。鈴木さんの事は覚えちよるじやろう。下関市場の専務じゃった。それで、送られてきた注文書に書きちよる寸法を見ると、厚みは9分とか幅は8寸5分とかヘンテコな寸法ばかり書きちよるんじや。『天皇陛下が立つのにホントにこんな厚みで良いんか？確認した方がいいぞ』ち言う事になって、朝、交換が繋がると直ぐに下関に電話を入れたんじや。当時は受話器の横に付いているレバーをぐるぐる回して交換に連絡して『市外をお願いします。』て言うて、昼頃やっと向こうから掛かってくるんじや。掛かったら一寸待ってもろうて家から工場まで走って行っておやじを呼んで来る。そうやって尋ねたら『削って8分やら8寸になればいいです。』ち言うんじや。縁起の良い寸法に仕上げるつもりじゃったんじやな。」

「なるほど。そんで、やっぱり無節じゃったんな？」「総檜じゃが、無節じゃのうても良いちゆう事じゃった。それも後で尋ねたら、出来上がった台に紅白の布を巻いたそうじや。」

「それやのに総檜造りな。う～ん・・・今でもそうじやろうか？」「さあ、どうしよるんかなあ。」

「大分国体ん時はどうしたんじやろうか？」「まあ、大分ん場合は日田があるからなあ、あっちに話が行ったんじやろう。出来上がった製品を送るときも一騒動あったんじや。下関まで届けるのに6tトラックの荷台にたったそれだけ積んでな。濡らしたらいかんて言うてシートも別府までわざわざ買いに行ったんで。それも今のブルーシートみたいな安物じゃなくて布製の立派な物じゃった。さあ出発と言う時もばあちゃんが『無事に着きま

休景たいむ 「いっぷく」時間の一枚



白丹の巢原を車で通り過ぎようとした時、和31で紹介した稲葉ダムの堰堤が視界に飛び込んできました。

「よしっ、今回は反対側から。」と、車を停めてパチリ。「この巨大な建造物が竹田市を水害から守ってくれるのか。」と思うと頼もしい限りです。初盆参りでの「いっぷく」時間の事でした。

知っ得？納得！ こんな所に こんな物

国道57号線沿いに点在し、すっかり見慣れてしまった人道トンネルです。さて、この人道トンネル、九州に幾つくらい在るとお思いですか？

国土交通省佐伯工事事務所 竹田維持出張所に伺ったところ、九州全体で5本。そして何と！そのうちの4本が竹田市にあるとのこと。驚くべき事実です。

各地域の実情（近くにスクールゾーンがある）や要望等が背景にあるらしく、『れんこん町』と言われる竹田ならではのトンネルのようです。

